

東京民医連

新潟中越地震支援ニュース

2004年10月30日

No. 7

発行：東京民医連

新潟中越地震対策本部

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

「マスコミも注目、NHK・UTYの取材と、夕方のトップニュースで放送!」100名の参加で、“生々しい報告”に驚きの声!

支援者自身も、多くの恐怖と不安を抱えながら懸命に・・・民医連の診療所が大きく役割を發揮していることを実感!是非交代で、たくさんの支援を送りましょう!<山梨民医連支援ニュースより>

【現地速報⑤】○医師(代々木病院)からの現地レポート

28日手術が終わった夕方6時に代々木病院を出発しました。新潟へ行くのだということ、これももっていかれないかと病院前の自販機の会社がミネラルウォーター、リネン会社から毛布、駅前のコンビニからパンと言う具合に次々と物資が持ち込まれ、2トントラックを借りて2台で行くことになりました。

関越道は月夜野でチェックがあり災害支援車にかぎっては長岡まで通過が可能です。しかし小出長岡間は道路が波打っており、場所によっては路肩がなくなっていたりかなりの損傷で、「高速道路」とはかけ離れた状態でした。

29日、車で避難所を回りました。長岡市で120数箇所の避難所があるそうです。市でも全部について把握しているわけではないようで、規模の大きなところには大学などの医療支援班を配置している一方、小規模の、被害の軽いところには手が行き届かないようです。

民医連は各地から100名が長岡せいきょう診療所に集まり19名の支援医師を軸に19チームを作り巡回をしました。市からの指示は有りませんが、こちらからはどこに行く、行ったと連絡をしており、医師が19名もですかと驚かれています。各チームはワゴンに載るだけの水、食料、オムツ、医療品をのせて医師、看護師、事務のチームで回ります。市街地はほぼ平穏で飲食店、スーパーマーケット、ガソリンスタンドなども開いており、普段と変わらない様に見えます。しかし体育館の扉を開けるとそこはテレビで報道されているそのままの状態でした。ビニールハウスに避難している人もいました。市の北東部は先の水害でも浸水した地域で今年2回目の避難です。

地震後1週間もたつのにまだ飲料水が不足しており、食料もごまおにぎりやパンが主で、カレーを持っていくと喜ばれるような状況でした。市の東南方面は被害が激しく豊田小・中学校はいまでも一杯でした。昼間は若い人が仕事や家の整理に出ているので、残っているのは老人と子ども達で、老人にひとり一人声をかけ血圧を測りながら回ります。70歳、80歳の人たちが1週間以上も集団生活を強いられるのはものすごいストレスのはずです。血圧を測りながら話を聞くだけでも顔に明るさが戻る人もいました。それ以外の地域はライフラインの回復も進み、物資もおおむね足りているようで、昼間はそれぞれ自宅に戻ることが出来るようでしたが夜間は怖いということで避難所にいるようです。

同じ市内でも被害にムラがあり、必要な支援が場所で異なり、刻々と変化していくことに対応するシステムは難しいと思いました。また、長期化し復旧が進むうちに取り残された部分への支援はどうなっていくのかすこし不安を感じました。明日は小千谷に行く予定です。

【現地速報⑥】○東京民医連・事務局次長からの現地レポート

29日午前2時に到着後、神田診療所で仮眠したあと小千谷入り、30日は避難所前にテントを構え、医療相談を行い、午後5時から医療支援が空白の河西町に入る予定です。

～被災者救援 募金などの取り組み～

NO6のニュースで

10月29日～31日の支援者で、西都保健生協・北多摩クリニックのH所長のお名前が抜けていました。訂正とお詫びを申し上げます。